

来年の暦から

編集部

1989年(昭和64年)には2回の日食があるが、いずれも部分食である。皆既食、金環食の見られない年は、この前には1982年に起こっている。この年は4回の日食があったが、いずれも部分食であった。

1. 部分食 3月8日, 1989年

最大食は3月8日3時7.7分(J.S.T.)で食分は0.827, 北アメリカ, グリーンランドで見られる。

2. 部分食 8月31日, 1989年

最大食は8月31日14時30.8分(J.S.T.)で、その食分は0.635, インド洋, アフリカ東南部で見られるが、2回とも日本では見ることが出来ない。

次の皆既日食は1990年7月22日, 北欧シベリヤ, 北太平洋を通過する。日食情報誌では、来年の各号で、観測候補地、候補地の気象、交通事情、日食ツアーの状況などについて、誌上で追って行きたいと考えている。

「1988年3月の皆既日食 — 各地からの観測レポート」について

木村精二

今年の3月にインドネシア・フィリピン・小笠原沖で見られた皆既日食の状況を、季刊天文雑誌「星の手帖」夏号に掲載するに当たり、観測ツアーの主催者等の協力も得て、30~40人の方に問い合わせをしたところ、非常に多くの情報とレポートを頂戴しました。同上誌に紹介できたのは、紙面の制約もあって極く一部に限られ、しかもお願いした期限後にも、貴重な資料が届きましたので、日食に関心をお持ちの方々に参考にして戴くため、これらを全部まとめて、B5判64ページの表題の印刷物としました。

日食情報の定期講読者へ本号に同封してお届けすることを、日食情報センターのスタッフにお願いしました。お気付きの点など、お知らせ下されると幸いです。